

令和元年度薬学教育自己点検・評価結果

(1) 令和元年度卒業時アンケートの集計データ分析

薬学部においては、学生の卒業に際し、4年間又は6年間の薬学教育をとおして、自身が身に付けることができた知識、技能及び能力について、アンケート形式で自己評価をしてもらい、アンケート結果は、薬学科（表1-1）と創薬科学科（表1-2）を区別して集計した。

なお、アンケートでは学生に、「1：十分身に付けることができた」、「2：ある程度身に付けることができた」、「3：あまり身に付けることができなかった」、「4：全く身に付けることができなかった」の4つの選択肢から1つを選んでもらうこととしており、薬学教育自己点検・評価においては、1及び2の選択肢を選んだ場合「身に付けることができた」、3及び4の選択肢を選んだ場合は「身に付けることができなかった」として判断した。

< 1. 全学共通項目（表1-1及び表1-2） >

薬学科の学生（表1-1）については、1）～4）、8）、9）の項目について、概ね85%以上が「身に付けることができた」と評価しており、これらの項目の達成満足度が高い一方、7）の「教養教育等による幅広い知識」及び10）の「地域を志向する意識」については、30%前後で「身に付けることができなかった」と評価しており、やや満足度が低く表れていた。また昨年度までと同様に、5）「母語以外の外国語（英語など）の語学力（聞く、話す、読む、書く）」及び6）「国際的な視点で考えることや国際的な感覚」の2項目では、「身に付けることができなかった」という評価が60%以上となっており、語学教育やグローバル化対応教育において、引き続き課題が残された。

創薬科学科の学生（表1-2）については、薬学科における結果と全体的な傾向は同じであるものの、特に3）「他者と協力し合うコミュニケーション能力」及び4）「口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力」では、25～36%が「身に付けることができなかった」と評価するなど、やや達成満足度が低めの項目が散見された。なお、語学教育やグローバル化対応教育の満足度が低いことは、薬学科と同程度であった。

< 2. 薬学部独自項目（表1-3） >

卒業時アンケートにおいては、全学共通項目に加え、薬学部の各学科に特化した内容の項目について、学科別にアンケート調査を実施した。

薬学科では、医療や薬剤師に関連する4項目の全てにおいて、「身に付けることができた」という評価が84～96%を占めており、6年間の薬剤師養成教育は適切に実施され、学生の達成満足度も良好であることが窺えた。

創薬科学科では、創薬研究に必要な知識やモチベーションに関する4項目の全てにおいて、概ね75%以上が「身に付けることができた」と評価しており、創薬科学科に求められる学識、技術、考え方を修得できていることが窺えた。

以上、令和元年度卒業時アンケート分析結果から、薬学科と創薬科学科ともに、学生達のディプロマ・ポリシー達成度は概ね適正な水準に到達しているものと評価した。ただし、創薬科学科の達成満足度の数値が、昨年と比べてやや低めであるとともに、特に「1.十分に身に付けることができた」と最も肯定的な回答を選択する割合が減少している状況が窺えた。様々な要因を勘案しつつ、今後の推移を注視していく必要がある。また、語学教育やグローバル化対応教育については、ディプロマ・ポリシー達成度向上のための方策を、今後も継続的に検討していくことが必要である。

(2) 令和元年度における修学状況データ分析

< 1. 学年別在籍状況 (表 2-1) >

薬学科と創薬科学科の両方において、いずれの学年においてもストレート在籍率が82%以上となっており、例年と同様に、留年者等の過度な発生状況はない。

< 2. 学年別進級率 (表 2-2) >

薬学科の直近5年間のデータでは、全学年において進級率90%前後が維持されていることから、休学・退学・留年者数は、適正な範囲内と判断される。ただし、令和元年度4年次生の進級率が82%と低水準となっている。特定の必修科目の合格率が低かったためと考えられ、今後のフォローアップが必要と思われる。

創薬科学科についても令和元年度データでは、全学年において進級率が90%前後となっており、また平成27年度以降5年間に渡り同程度の水準が維持されていることから、休学・退学・留年者数は、概ね適正な状況といえる。

< 3. 卒業状況 (表 2-3) >

薬学科は、卒業率100%を平成27年度以降5年間継続しており、令和元年度ストレート卒業率も85%と、例年と変わらず良好な状況である。

創薬科学科は、令和元年度で卒業率98%、ストレート卒業率83%となっており、過去5年間を含め卒業状況は適正な状況である。

以上、令和元年度における修学状況データ分析結果から、現状の学生受入れ水準設定やカリキュラム編成、成績評価は、両学科ともに適正に機能していると評価した。

(3) 就職先への卒業後アンケートの集計データ分析 (表 3-1)

今年度は、学部卒業2年以内の卒業生が在籍する企業等に対し、本学薬学部の「教育成果」についてのアンケート調査を実施した。77か所へ調査票を送付し、37件の回答を得た(回収率48%)。前回(平成27年度)の回答数(17件)を大幅に上回る回答が得られた(参考資料:表3-2)。なお、本アンケートは、薬学科と創薬科学科を区別せずに、一括して実施した。

「採用して良かったか」との質問に対しては、33件（94%）が「大変良い」「良い」と高く評価されたほか、「専門知識および技術について」及び「協調性について」の質問において、「大変良い」「良い」の割合が90%を超える高評価を得られている。そのほか、「大変良い」「良い」の割合が80%を超える評価を得たのが、「積極性について」「探求心、思考力について」「倫理観について」「責任感について」「職務に対する目標設定能力について」であり、本学薬学部の講義や卒業研究、事前学習、実務実習などの教育成果が現れている結果であると評価できる。「外国語の語学力」については、まだ入社2年以内であるためか、「不明」との回答が9件（26%）得られたが「良くない」は0件で、「大変良い」が6%、「良い」が32%であった。前回の調査（参考資料：表3-2）では回答数が少ないものの、「大変良い」が35%であったことと比較し、就職先等からの評価がやや低下していることがわかる。学生の卒業時アンケートでは「外国語の語学力」に対する自己評価はここ数年ほぼ変化がないことから、就職先等の望む語学力のレベルが高まったのではないかと推察される。

以上の分析結果から、就職先企業による客観的評価においても、ディプロマ・ポリシー達成度は概ね適正な水準に到達しているものと評価した。

（４）「人の行動と心理に関する教育」についての自己点検・評価（表４）

薬学準備教育ガイドライン、「（２）人の行動と心理」で掲げられている、合計23項目のSBOsについて、教育内容に含まれている科目を調査するため、薬学部講義担当教員を対象としてアンケート調査を実施した（令和元年8月27日、調査依頼）。その調査結果について、令和元年度の学科別受講者数データ等とともに、表４にまとめる。

調査の結果、専門必修科目「行動科学（２年次開講）」及び教養選択科目「医療心理学（１年次開講）」の２科目で、21項目のSBOsをカバーしていることが分かった。また、残りの２項目のSBOsについては、現状では教育内容として含む科目がないことが明らかとなった。「行動科学」は必修科目であるため、両学科ともに学生全員が履修しているが、選択科目である「医療心理学」については、令和元年度においては薬学科48名（62名中）、創薬科学科33名（48名中）の履修にとどまっている。

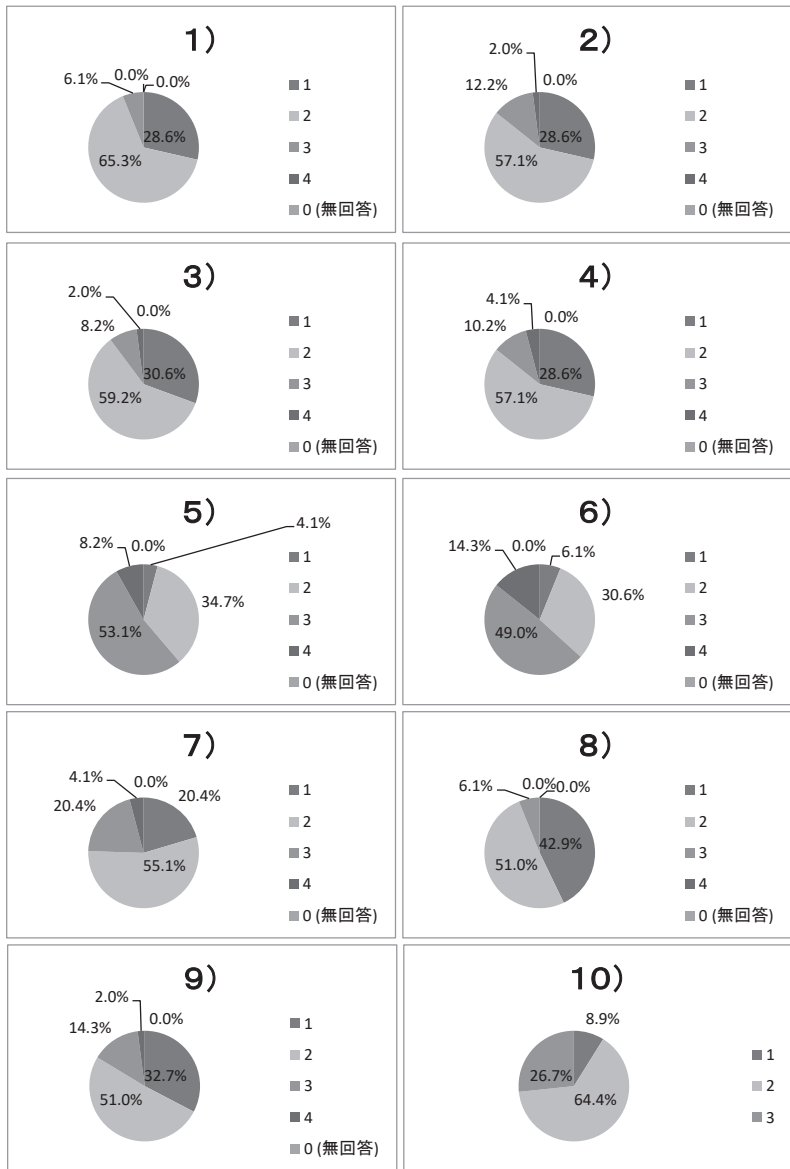
[今後の対応策について]

- ・現状カバーできていない「こころの発達の原因について概説できる」「集団の中の人間関係（競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ）について概説できる」の2項目のSBOsについては、「行動科学」又は「医療心理学」の科目において教育内容に含めてもらうよう、教務委員長から科目担当教員に依頼する。（令和元年12月9日に依頼、同日承諾済み）
- ・現状、選択科目である「医療心理学」については、将来的に両学科とも必修化を目指す。
- ・「医療心理学」について、当面は、両学科の学生全員が履修するように、新入生オリエンテーション時に教務委員長から履修指導を行う。
- ・「医療心理学」について、履修者数の動向調査を実施して、年度ごとの履修者数を把握する。

(表1-1) 卒業時アンケート集計(全学・葉のみ集計)

在学時に、以下の能力等をどの程度身につけることができたと思いますか。

アンケート項目	選択肢	2019	比率
1) 課題や問題を自ら解決する能力	1	14	28.6%
	2	32	65.3%
	3	3	6.1%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
2) 組織や社会の一員として責任を持って行動する能力	1	14	28.6%
	2	28	57.1%
	3	6	12.2%
	4	1	2.0%
	0(無回答)	0	0.0%
3) 他者と協力し合うコミュニケーション能力	1	15	30.6%
	2	29	59.2%
	3	4	8.2%
	4	1	2.0%
	0(無回答)	0	0.0%
4) 口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力	1	14	28.6%
	2	28	57.1%
	3	5	10.2%
	4	2	4.1%
	0(無回答)	0	0.0%
5) 母語以外の外国語(英語などの)語学力(聞く、話す、読む、書く)	1	2	4.1%
	2	17	34.7%
	3	26	53.1%
	4	4	8.2%
	0(無回答)	0	0.0%
6) 国際的な視点で考えることや国際的な感覚	1	3	6.1%
	2	15	30.6%
	3	24	49.0%
	4	7	14.3%
	0(無回答)	0	0.0%
7) 教養教育等による幅広い知識	1	10	20.4%
	2	27	55.1%
	3	10	20.4%
	4	2	4.1%
	0(無回答)	0	0.0%
8) 専門教育による深い専門知識・技能	1	21	42.9%
	2	25	51.0%
	3	3	6.1%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
9) 幅広い知識、深い専門知識・技能の修得により、社会で活躍できる能力	1	16	32.7%
	2	25	51.0%
	3	7	14.3%
	4	1	2.0%
	0(無回答)	0	0.0%
10) 地域を志向する意識(富山を通して、地域社会における諸課題を理解し、貢献しようとする意識)	1	4	8.2%
	2	29	59.2%
	3	12	24.5%
	4	4	8.2%
	0(無回答)	0	0.0%
11)	本学での学生生活で得られたこと、あるいは得られなかったことについて、意見がありますか。 → 自由記述としたため別紙		

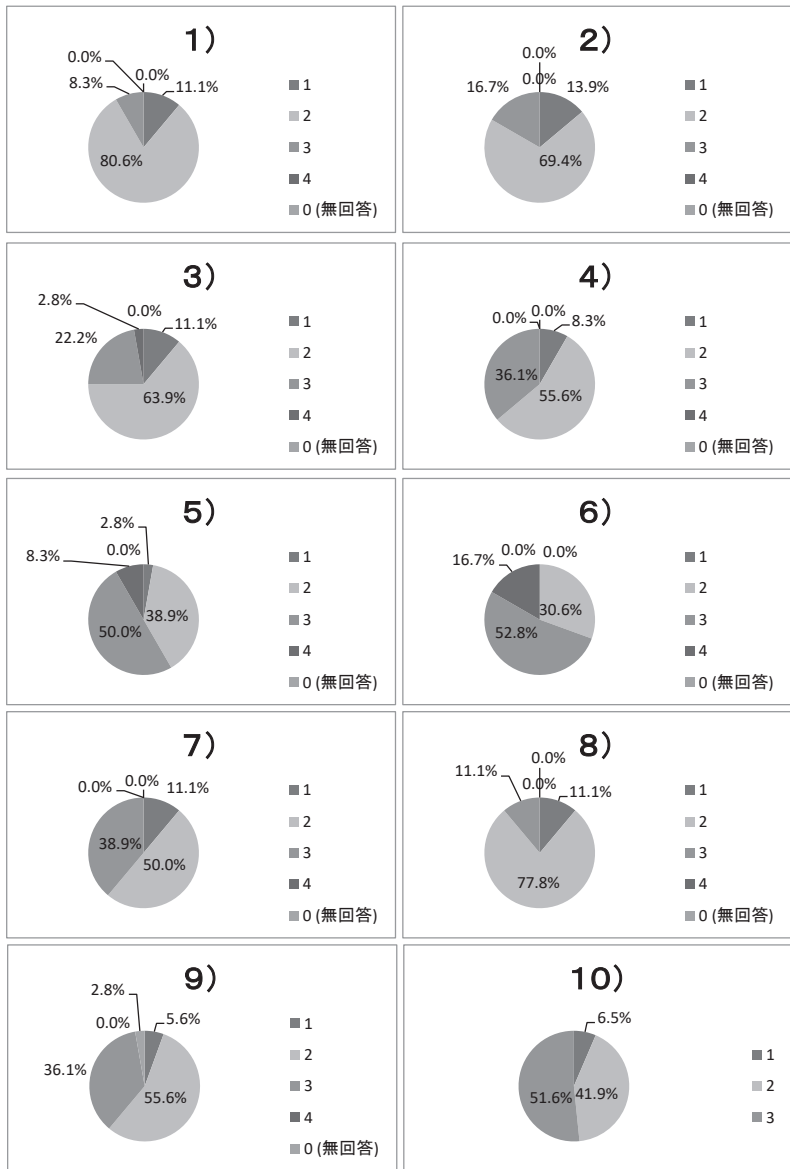


1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
 3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった

(表1-2) 卒業時アンケート集計(全学・創薬のみ集計)

在学時に、以下の能力等をどの程度身につけることができたと思いますか。

アンケート項目	選択肢	2019	比率
1) 課題や問題を自ら解決する能力	1	4	11.1%
	2	29	80.6%
	3	3	8.3%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
2) 組織や社会の一員として責任を持って行動する能力	1	5	13.9%
	2	25	69.4%
	3	6	16.7%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
3) 他者と協力し合うコミュニケーション能力	1	4	11.1%
	2	23	63.9%
	3	8	22.2%
	4	1	2.8%
	0(無回答)	0	0.0%
4) 口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力	1	3	8.3%
	2	20	55.6%
	3	13	36.1%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
5) 母語以外の外国語(英語などの)語学力(聞く、話す、読む、書く)	1	1	2.8%
	2	14	38.9%
	3	18	50.0%
	4	3	8.3%
	0(無回答)	0	0.0%
6) 国際的な視点で考えることや国際的な感覚	1	0	0.0%
	2	11	30.6%
	3	19	52.8%
	4	6	16.7%
	0(無回答)	0	0.0%
7) 教養教育等による幅広い知識	1	4	11.1%
	2	18	50.0%
	3	14	38.9%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
8) 専門教育による深い専門知識・技能	1	4	11.1%
	2	28	77.8%
	3	4	11.1%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
9) 幅広い知識、深い専門知識・技能の修得により、社会で活躍できる能力	1	2	5.6%
	2	20	55.6%
	3	13	36.1%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	1	2.8%
10) 地域を志向する意識(富山を通して、地域社会における諸課題を理解し、貢献しようとする意識)	1	2	5.6%
	2	13	36.1%
	3	16	44.4%
	4	5	13.9%
	0(無回答)	0	0.0%
11)	本学での学生生活で得られたこと、あるいは得られなかったことについて、意見がありますか。 → 自由記述としたため別紙		

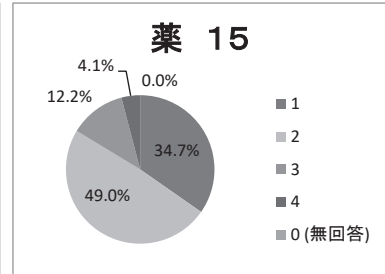
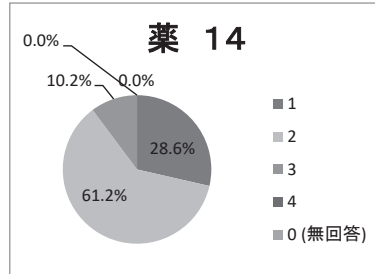
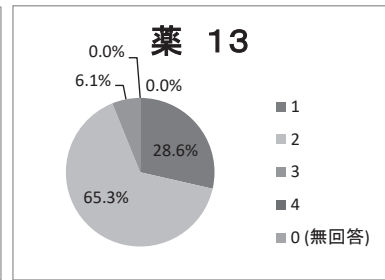
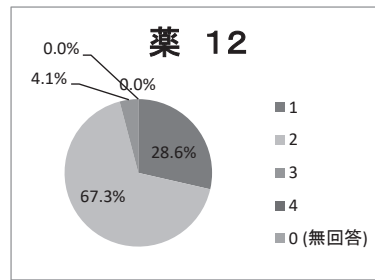


1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
 3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった

(表1-3)卒業時アンケート集計(薬学独自)

薬学科

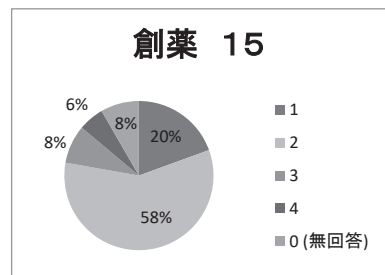
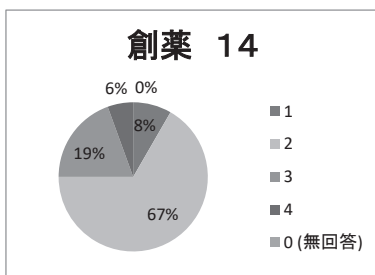
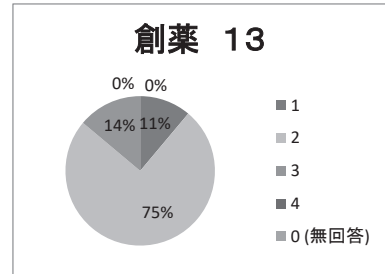
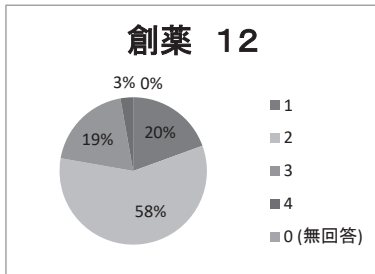
アンケート項目	選択肢	2019	比率
12 健康と疾患に対する洞察力を身に付けることができましたか	1	14	28.6%
	2	33	67.3%
	3	2	4.1%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
13 薬剤師業務に関する基本的技能を身に付けることができましたか	1	14	28.6%
	2	32	65.3%
	3	3	6.1%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
14 薬物療法の実践および公衆衛生の向上に寄与する能力を身に付けることができましたか	1	14	28.6%
	2	30	61.2%
	3	5	10.2%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
15 本学の教育が今後の進路決定に役立ったと思いますか	1	17	34.7%
	2	24	49.0%
	3	6	12.2%
	4	2	4.1%
	0(無回答)	0	0.0%



1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
 3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった

創薬科学科

アンケート項目(創薬科学科)	選択肢	2019	比率
12 自然現象に対する知的好奇心・探求心を身に付けることができましたか	1	7	19.4%
	2	21	58.3%
	3	7	19.4%
	4	1	2.8%
	0(無回答)	0	0.0%
13 創薬科学に関する幅広い学識と実験技術等を身に付けることができましたか	1	4	11.1%
	2	27	75.0%
	3	5	13.9%
	4	0	0.0%
	0(無回答)	0	0.0%
14 医薬品創出に取り組むために必要な創造的思考力を身に付けることができましたか	1	3	8.3%
	2	24	66.7%
	3	7	19.4%
	4	2	5.6%
	0(無回答)	0	0.0%
15 本学の教育が今後の進路決定に役立ったと思いますか	1	7	19.4%
	2	21	58.3%
	3	3	8.3%
	4	2	5.6%
	0(無回答)	3	8.3%



1. 十分身に付けることができた 2. ある程度身に付けることができた
 3. あまり身に付けることができなかった 4. 全く身に付けることができなかった

(表2-1)R2年4月における学年別在籍状況

(薬学科)

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学時の学生数(A)		55	59	60	57	55	56
R2年4月時の在籍学生数(B)		56	60	60	65	51	54
過年度生の数(C)	留年による者	0	3	2	13	5	6
	休学による者	1	0	1	0	0	1
転学科者の数(D)		0	0	0	0	0	1
ストレート在籍者数(E = B-C-D)		55	57	57	52	46	46
ストレート在籍率(E/A)		1.00	0.97	0.95	0.91	0.84	0.82
過年度在籍率(C/B)		0.02	0.05	0.05	0.20	0.10	0.13

(創薬科学科)

学年		1年	2年	3年	4年
入学時の学生数(A)		54	55	51	52
R2年4月時の在籍学生数(B)		59	56	48	50
過年度生の数(C)	留年による者	5	6	3	5
	休学による者	0	0	0	0
転学科者の数(D)		0	0	0	2
ストレート在籍者数(E = B-C-D)		54	50	45	43
ストレート在籍率(E/A)		1.00	0.91	0.88	0.83
過年度在籍率(C/B)		0.08	0.11	0.06	0.10

(表2-2)H27年度～R元年度における学年別進級率

(薬学科)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	
1年次	在籍者数	59	55	58	64	61
	休学者数	0	0	2	1(但し進級)	1
	退学者数	2	1	1	0	1
	留年者数	0	1	2	2	0
	進級率	0.97	0.96	0.91	0.97	0.98
2年次	在籍者数	63	61	56	54	62
	休学者数	0	0	0	0	0
	退学者数	0	3	1	0	1
	留年者数	4	3	1	0	1
	進級率	0.94	0.90	0.96	1.00	0.97
3年次	在籍者数	57	63	59	57	56
	休学者数	1	3	0	0	0
	退学者数	1	0	1	0	0
	留年者数	3	1	3	2	0
	進級率	0.91	0.94	0.93	0.96	1.00
4年次	在籍者数	55(※)	56(※)	60	60(※)	61
	休学者数	3	1	1	3	7
	退学者数	0	0	0	1	0
	留年者数	0	0	3	3	▲4
	進級率	0.95	0.98	0.93	0.88	0.82
5年次	在籍者数	57	52	55	56	55
	休学者数	0	0	0	1	0
	退学者数	0	0	0	0	0
	留年者数	0	0	0	1	1
	進級率	1.00	1.00	1.00	0.96	0.98

※ 創薬→薬の転学科1名を含む。

▲ うち2名は年度限りで創薬へ転学科

在籍者数は当該年度始め、休学、退学、留年者数は当該年度末の数値

(創薬科学科)

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	
1年次	在籍者数	60	63	56	56	59
	休学者数	1	1	2	0	0
	退学者数	2	1	2	4	2
	留年者数	8	3	3	4	5
	進級率	0.82	0.92	0.88	0.86	0.88
2年次	在籍者数	60	53	59	56	50
	休学者数	1	1	1	0	1
	退学者数	3	0	2	2	1
	留年者数	3	0	6	2	3
	進級率	0.88	0.98	0.85	0.93	0.90
3年次	在籍者数	45	57	57	51	52
	休学者数	1	0	0	0	0
	退学者数	0	1	0	0	1
	留年者数	3	5	1	0	3
	進級率	0.91	0.89	0.98	1.00	0.92

在籍者数は当該年度始め、休学、退学、留年者数は当該年度末の数値

(表2-3)H27年度～R元年度における卒業状況

(薬学科)

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
6年次生(年度末)の在籍学生数(A)		54	57	52	55	54
卒業者数(B)		54	57	52	55	54
卒業率(B/A)		1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
卒業までに要した年数	6年(C)	48	52	45	50	51
	7年	2	3	2	5	2
	8年	3	2	2	0	1
	9年以上	1	0	3	0	0
6年次生(C)が入学した年度の実入学者数(D)		55	57	57	59	60
ストレート卒業率(C/D)		0.87	0.91	0.79	0.85	0.85

(創薬科学科)

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
4年次生(年度末)の在籍学生数(A)		54	40	51	57	51
卒業者数(B)		54	40	47	56	50
卒業率(B/A)		1.00	1.00	0.92	0.98	0.98
卒業までに要した年数	4年(C)	45	37	41	47	45
	5年	6	0	4	4	4
	6年	1	2	1	4	0
	7年以上	2	1	1	1	1
4年次生(C)が入学した年度の実入学者数(D)		50	51	53	54	54
ストレート卒業率(C/D)		0.90	0.73	0.77	0.87	0.83

(表3-1)富山大学薬学部卒業生に対する「教育成果」についてのアンケート集計結果(令和元年度)

77ヶ所へ送付し37件の回答(回収率約48%, 但しうち2件は個別項目への回答を控えるとのこと)

	大変良い	良い	普通	良くない	不明	
1. 専門知識および技術について	16 46%	17 49%	2 6%	0 0%	0 0%	
2. 外国語の語学力について	2 6%	11 32%	12 35%	0 0%	9 26%	
3. コミュニケーション能力について	15 43%	11 31%	8 23%	1 3%	0 0%	
4. プレゼンテーション能力について	9 26%	15 43%	7 20%	2 6%	2 6%	
5. 問題発見・問題解決能力について	13 37%	14 40%	7 20%	1 3%	0 0%	
6. 主体性について	13 37%	14 40%	7 20%	1 3%	0 0%	
7. 積極性について	13 37%	16 46%	5 14%	1 3%	0 0%	
8. 協調性について	12 34%	20 57%	2 6%	1 3%	0 0%	
9. 探求心, 思考力について	15 43%	16 46%	4 11%	0 0%	0 0%	
10. 倫理観について	16 46%	14 40%	5 14%	0 0%	0 0%	
11. 責任感について	17 49%	14 40%	4 11%	0 0%	0 0%	
12. 職務に対する目標設定能力について	9 26%	19 54%	7 20%	0 0%	0 0%	
13. 後進の指導能力について	6 17%	12 34%	8 23%	0 0%	9 26%	
14. 採用して良かったか	25 71%	8 23%	1 3%	1 3%	0 0%	

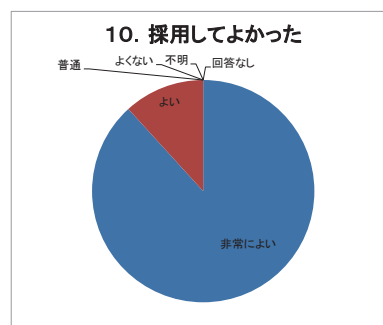
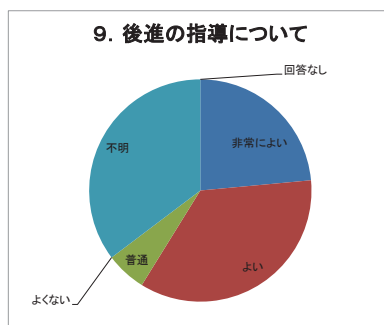
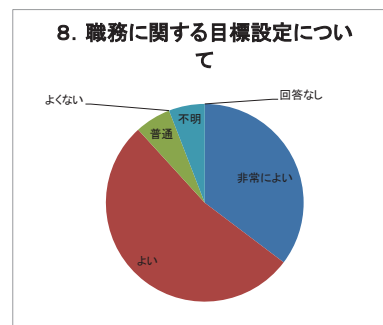
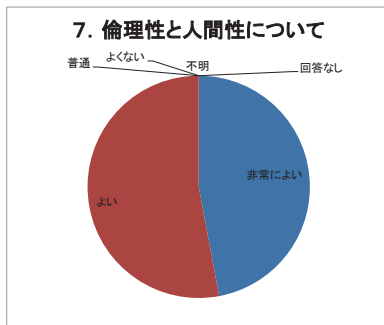
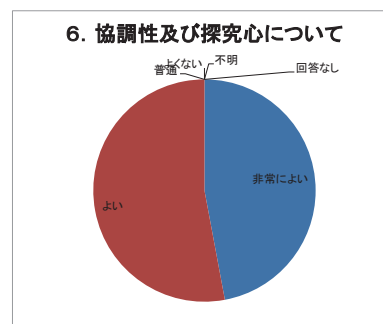
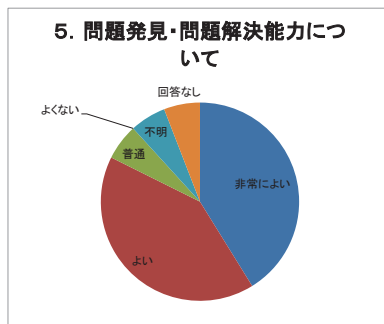
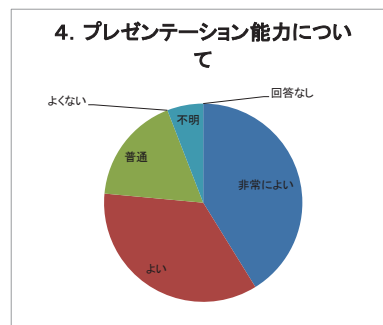
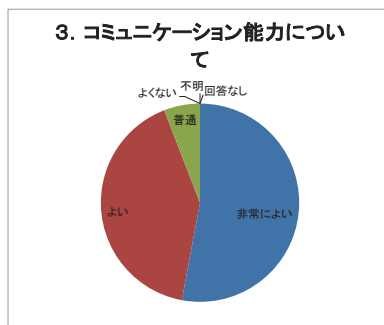
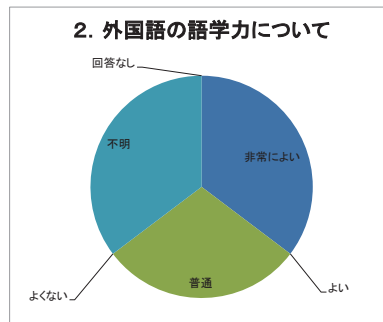
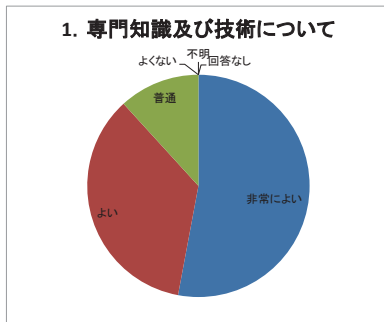
(表3-2)薬学部卒業生就職先企業等 アンケート(平成27年度)

次の質問項目ごとに該当する結果に○を付して下さい。

17 社回答

1. 専門知識及び技術について	非常によい	9 (52.9%)
	よい	6 (35.3%)
	普通	2 (11.8%)
	良くない	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)
	回答なし	0 (0.0%)
2. 外国語の語学力について	非常によい	6 (35.3%)
	よい	0 (0.0%)
	普通	5 (29.4%)
	良くない	0 (0.0%)
	不明	6 (35.3%)
	回答なし	0 (0.0%)
3. コミュニケーション能力について	非常によい	9 (52.9%)
	よい	7 (41.2%)
	普通	1 (5.9%)
	良くない	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)
	回答なし	0 (0.0%)
4. プレゼンテーション能力について	非常によい	7 (41.2%)
	よい	6 (35.3%)
	普通	3 (17.6%)
	良くない	0 (0.0%)
	不明	1 (5.9%)
	回答なし	0 (0.0%)
5. 問題発見・問題解決能力について	非常によい	7 (41.2%)
	よい	7 (41.2%)
	普通	1 (5.9%)
	良くない	0 (0.0%)
	不明	1 (5.9%)
	回答なし	1 (5.9%)
6. 協調性及び探究心について	非常によい	8 (47.1%)
	よい	9 (52.9%)
	普通	0 (0.0%)
	良くない	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)
	回答なし	0 (0.0%)
7. 倫理性と人間性について	非常によい	8 (47.1%)
	よい	9 (52.9%)
	普通	0 (0.0%)
	良くない	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)
	回答なし	0 (0.0%)
8. 職務に関する目標設定について	非常によい	6 (35.3%)
	よい	9 (52.9%)
	普通	1 (5.9%)
	良くない	0 (0.0%)
	不明	1 (5.9%)
	回答なし	0 (0.0%)
9. 後進の指導について	非常によい	4 (23.5%)
	よい	6 (35.3%)
	普通	1 (5.9%)
	良くない	0 (0.0%)
	不明	6 (35.3%)
	回答なし	0 (0.0%)
10. 採用して良かった	非常によい	15 (88.2%)
	よい	2 (11.8%)
	普通	0 (0.0%)
	良くない	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)
	回答なし	0 (0.0%)

回答企業等組織数: 17 件



(表4)

薬学準備教育ガイドライン

(2)人の行動と心理 (GIO)人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を修得する

	【①人の行動とその成り立ち】	(科目名)*複数可	(必修・選択)	(開講年次)	(R1年度の学科別受講者数)	(備考)
1	行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
2	行動と人の内的要因、社会・文化的環境との関係について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
3	本能行動と学習行動について説明できる。	医療心理学	選択	1	薬学部薬学科 48名 薬学部創薬科学科 33名	教養教育科目
4	レスポナドント条件づけとオペラント条件づけについて説明できる。	医療心理学	選択	1	薬学部薬学科 48名 薬学部創薬科学科 33名	教養教育科目
5	社会的学習(モデリング、観察学習、模倣学習)について概説できる。	医療心理学	選択	1	薬学部薬学科 48名 薬学部創薬科学科 33名	教養教育科目
6	健康行動の理論(健康信念モデル、変化のステージモデルなど)について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
【②動機づけ】						
1	生理的動機、内発的動機、および社会的動機について概説できる。	医療心理学	選択	1	薬学部薬学科 48名 薬学部創薬科学科 33名	教養教育科目
2	欲求とフラストレーション・葛藤との関連について概説できる。	医療心理学	選択	1	薬学部薬学科 48名 薬学部創薬科学科 33名	教養教育科目
3	適応(防衛)機制について概説できる。	医療心理学	選択	1	薬学部薬学科 48名 薬学部創薬科学科 33名	教養教育科目
【③ストレス】						
1	主なストレス学説について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
2	人生や日常生活におけるストレスサーについて例示できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
3	ストレスコーピングについて概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
【④生涯発達】						
1	こころの発達の原理について概説できる。					
2	ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴および発達課題について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
3	こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
【⑤パーソナリティ】						
1	性格の類型について概説できる。	医療心理学	選択	1	薬学部薬学科 48名 薬学部創薬科学科 33名	教養教育科目
2	知能の発達と経年変化について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
3	役割理論について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
4	ジェンダーの形成について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
【⑥人間関係】						
1	人間関係における欲求と行動の関係について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
2	主な対人行動(援助、攻撃等)について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	
3	集団の中での人間関係(競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ)について概説できる。					
4	人間関係と健康心理との関係について概説できる。	行動科学	必修	2	薬学部薬学科 62名 薬学部創薬科学科 48名	